

公益財団法人渥美国際交流財団
2022年度奨学生
秋季研究報告会
2023年9月30日（土）

当日の写真





角田英一事務局長の総合司会で、
渥美直紀理事長による開会ご挨拶がスタート。

“ 2022年度奨学生は私が初めて参加した選考会で出会った
方々です。その後どのように研究を積まれたのか、
今日の発表を聞くのが楽しみです。”





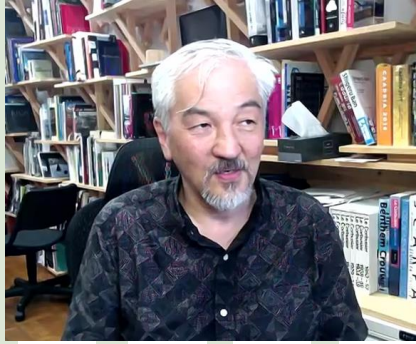
【コメント】 (左) 吉見俊哉先生 (指導教官・オンライン)
(右) 劉傑先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) クラフト、ロバート
【タイムキープ】 (右) 賈海濤



安ウンビョル
「鉄道旅行の上演
——現代日本の鉄道における想像／
実現されたモビリティ」



【コメント】 (左) 池田靖史先生 (指導教官・オンライン)
(右) 片岡達治先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) 馬歌陽
【タイムキープ】 (右) 白川誠

シェッターディ、モハَمَّد アキル
「モロッコにおけるイスラム都市の形態」





【コメント】 (左) 森田典正先生 (指導教官・オンライン)
(右) 平川均先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) 詹亜訓
【タイムキープ】 (右) シム ミンソプ

加藤 健太
「戦後日本映画における
「女々しい」キャラクター研究」



モハッラミプール、ザヘラ
「20世紀初頭の日本における「東洋」概念の拡張
— 伊東忠太とその周辺の建築家・美術史家・
歴史学者たちのペルシア観を中心に」



【コメント】 (左) 今橋映子先生 (指導教官・オンライン)
(右) 明石康先生 (渥美財団顧問)



【司会】 (左) 徳永佳晃
【タイムキープ】 (右) 何星雨





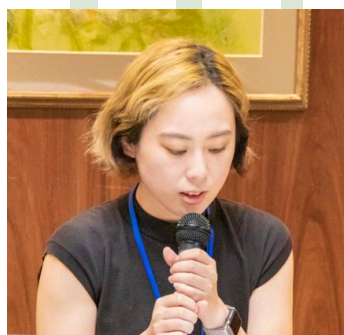
前半4名の発表後、
コーヒースタンドの時間。

新天地へ向かう方もいれば
今の場所で研究を続ける方も。
束の間の交流の時間になりました。



プロホロワ マリア
「境界という自由、境界という苦痛
— 多和田葉子とリノール・ゴラーリクの作品における
異種間コミュニケーションをめぐる —」

【コメント】 (左) 沼野恭子先生 (指導教官・オンライン)
(右) 片岡達治先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) 趙炳郁
【タイムキープ】 (右) 久後香純





【コメント】 (左) 本間次彦先生 (指導教官)
(右) 劉傑先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) 染谷莉奈子
【タイムキープ】 (右) 黄若翔

錢 海英
「清末中国の国民論
— もう一つの中国ナショナリズム (1901~1911年) 」





【コメント】 (左) 明石康先生 (渥美財団顧問)
(右) 平川均先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) 徐子焮
【タイムキープ】 (右) 楠田悠貴

ワイネクノーラ
「在日米軍と共に生きる
— 沖縄の基地従業員から見えてくる権力関係」



丁乙
「『ラオコオン』論争からみる二〇世紀中国美学」



【コメント】 (左) 小田部胤久先生 (指導教官・オンライン)
(右) 劉傑先生 (渥美財団理事)



【司会】 (左) エンファムガラノオン
【タイムキープ】 (右) 小美濃 彰





今西淳子常務理事による閉会ご挨拶のあとで集合写真。
2022年度奨学生のみなさん、
これからはラクーンとしてよろしくお願い致します！

閉会後にはささやかな懇親会も開催。
昼すぎから始まった報告会も、終わる頃にはすっかり外が
暗くなり、楽しげな食卓の明かりがホールを包んでいました。

